

「国際農林水産業研究に関する連絡会議」議事概要

開催日時 平成 30 年 3 月 19 日（月）14：00～16：30

開催場所 農林水産省共用第 5 会議室、別 007

議事のポイント

- 第 2 回連絡会議に引き続き、国際農林水産業研究戦略（以下「国際研究戦略」という。）に基づく活動状況につき、今後の更なる活動の推進を目的にオールジャパンとしての情報共有及び意見交換を実施。
- 事務局から、国際研究戦略の 4 つの柱に対応した農林水産技術会議事務局の各種の活動状況について報告。また、関係機関等からも国際共同研究に関する活動状況について報告。
- 国際研究戦略の 2 つ目の柱である「開発途上地域における技術開発の推進」に関し、「農林水産分野の研究支援事業の現状と今後の方向性・課題」及び「大学、民間企業等との連携の好事例及び課題」について、それぞれ国際協力機構（JICA）と国際農林水産業研究センター（JIRCAS）から報告。

議事概要

1. 関係機関等による状況報告（主な内容）

（1）農林水産技術会議事務局国際研究官（室）

- ・国際研究戦略に基づく活動の進捗状況及び今後の取組予定、平成 30 年度予算概算決定の概要について説明。
- ・農業分野の温室効果ガス排出削減に関するグローバル・リサーチ・アライアンス（GRA）の議長国としての活動、新たな栄養評価法の導入による栄養改善事業の取組、昨年 11 月に行われた G20 首席農業者研究者会議（MACS）について、それぞれ報告。
- ・2018 年の若手外国人農林水産研究者表彰の候補者募集の開始について紹介。

（2）外務省

- ・定期的で開催されている科学技術外交推進会議において取りまとめられた北極域での科学的知見の活用に向けた提言の他、今後同会議で SDGs のための科学技術の活用を継続的に議論していく旨紹介。
- ・外務省の戦略的実務者招へいスキームによるイランの科学アカデミー副総裁の招へいについて報告。

（3）農研機構

- ・前回会議以降に締結された覚書（MOU）について報告。
- ・平成 30 年から開始している「国際共同研究スタートアップ支援」について紹介。
- ・（農業環境変動研究センターから、）農業環境分野における国際ネットワークとの連携として、UNFCCC コロネビア共同作業に対応した国内作業、GRA、地球土壌パートナーシ

ップ（GSP）等に関する取組状況について報告。

(4) 国際農林水産業研究センター（JIRCAS）

・開発途上地域における技術開発の推進に向けた連携強化の状況として、各種国際会議への出席状況、ブルキナファソ及びマダガスカルにおける地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）の実施状況について報告。

(5) 森林研究・整備機構森林総合研究所

・森林総合研究所における国際研究、特に大きなインパクトがある REDD+推進民間活動支援に関する研究等について報告。また、特に国際機関への研究の橋渡しに関する取組について報告。

(6) 水産研究・教育機構中央水産研究所

・日中韓の3か国の水産研究機関による MOU に基づいて開催されている日中韓水産研究機関長会議の開催（札幌）について報告。また、台湾との研究交流として台湾におけるシンポジウムの開催についても報告。
・本年10月に北太平洋海洋科学会議が我が国（横浜）で開催されるため、水研機構を挙げて取り組む旨報告。

(7) 国際協力機構（JICA）

・浅沼修一 JICA 国際協力専門員が国際熱帯農業研究所（IITA）理事に就任することとなった旨報告。
・アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）の取組状況について、2019年からの12年間において、2018年の生産量に対して更に倍増する目標を掲げ、市場競争性のあるコメの生産や民間企業との連携にも取り組む予定である旨報告。

(8) 科学技術振興機構研究開発戦略センター

・2019年3月に発刊予定の「研究開発の俯瞰報告書」において取り上げるフランスについて、政策文書（農業・イノベーション2025案）や農業分野の研究開発テーマ（重要なテーマとして、気候変動への対処、データ基盤の強化等）について概説。
・デジタル統合アグリバイオ技術による超スマート生産というテーマについて、30年度にはテーマを拡大して引き続き調査を行う旨報告。

(9) 農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

・ワーヘニンゲン大学研究センター（WUR）と JISNAS が締結した MOU（2017年6月）の下、ミャンマーにおいて WUR と共同で総合的病害虫管理（IPM）を主要テーマとしたワークショップを開催した旨、また、JICA とは「農林水産分野における戦略的な途上国人材の育成：JICA－大学の協働による研修・留学プログラム」というテーマでフォーラムを開催した旨報告。
・本年8月に行われる WUR の100周年記念の国際シンポジウムの中で WUR と共同で1つのセッションを企画している旨報告。

(10) カゴメ株式会社

- ・アフリカのセネガル共和国で展開している加工用トマトの営農事業の概要について報告。

2. 開発途上地域における技術開発の推進

(1) JICA

- ・JICAにおける農林水産分野の研究支援事業の現状と今後の方向性・課題として、TICAD VIにおいて立ち上げられた「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ (IFNA)」に関する取組について説明。本取組は持続可能な開発目標 (SDGs) が掲げる「飢餓の根絶と栄養状態の改善」に貢献するものであり、マルチセクターの相乗効果が発揮されるよう総合的に取り組んでいくとし、その活動のポイントと今後の取組予定について説明。

(2) JIRCAS

- ・JIRCASにおける大学、民間企業との連携の好事例及び課題として、バイオマス利用技術の開発に関する事業を紹介するとともに課題（技術開発の面、企業との連携の面、制度・政策の面）等について説明。

以上